

2016年度 第2回 学校関係者評価委員会議事録

日 時:2016年11月9日(水) 10:00 ~ 11:30

場 所:広島YMCA専門学校 校長室

広島市中区八丁堀7-11 広島YMCA1号館 1階

出席者:

東洋観光株式会社	相談役	鵜飼 恵美 様
株式会社ユースサービス	代表取締役社長	羽原 泰二 様
広島YMCA専門学校	在校生保護者	高畑 千暁 様
広島YMCA専門学校	校 長	安 森 讓
広島YMCA専門学校	事務長	殿 納 隆 義
広島YMCA専門学校	事務長補佐	岩 垂 竜 太 郎

欠席者:

広島YMCA専門学校	卒業生	小 林 成 美
------------	-----	---------

議事内容:

配布資料の確認

- ① 2016年度第2回学校関係者評価委員会レジメ
- ② 2016年度第1回学校関係者評価委員会議事録案
- ③ 2015年度自己点検評価表
- ④ 2016年度第2回学校関係者評価委員会資料
- ⑤ 内定者一覧(2016/10/27 現在)
- ⑥ 2016年度後期学事日程表

会を始めるにあたり安森校長のご挨拶をいただき議事を進めた。

1. 2016年度第1回学校関係者評価委員会議事録の確認

第1回学校関係者評価委員会の議事録確認を行い、参加者全員の承認をいただき、議事録署名を安森校長と小林委員(本日は欠席)にお願いすることとした。

2. 2015年度自己点検評価に対する委員の評価

資料に沿って2015年度自己点検評価表についての説明がなされた。その後、事前にお届けしていた2015年度自己点検評価表の各項目に対して、各委員の方々より評価コメントを頂戴した。

①学校の教育目標

- ・ 「広島YMCA専門学校中期計画(2012~2014)」が終了し、一定の成果が伺える。引き続き学校改革ビジョン並びに学校経営計画をすべての教職員が共有し、豊かな人間教育を涵養し、スピリット、マインド、ボディの調和のとれた教育を展開する学校経営を進めていただきたい。

②学校運営

- ・ 校長を中心とする責任ある学校運営、意思決定が機能していることが伺える。
- ・ 言語コミュニケーション科に関して、学事日程、授業評価システムなど学校運営上統一すべき課題が若干ある。
- ・ 今後、学校の内と外に向けて開かれた風通しのよい学校運営のため、業界や地域社会との連携をさらに深めていただきたい。

③教育活動

- ・ 2015年度前期・後期全授業科目174科目のうち、評点4.0以上が142科目、授業担当者が60名のうち評点4.0以上が48名であった。
- ・ 3.0未満の科目は1.1%、3.0未満の授業担当者は0名となっている。
- ・ 2014年度と比較すると10ポイント近くの改善であり、好ましい傾向にあると言える。
- ・ すぐれた教員の確保、業界団体と連携した教員研修を進め、さらに教育内容を高めてほしい。

④学修成果

- ・ 2015年度進路就職支援のビジョンは「就職を希望する生徒は希望職種に100%就職させる。進学を希望する生徒は100%進学させる。」であった。就職希望者の内定率について、2015年度3月1日では、医療事務科92%、ホスピタリティ科92%、社会体育科83%であった。(3月末ではほぼ100%)
- ・ 専門士としての関連分野への就職は医療事務科100%、ホスピタリティ科100%、社会体育科88%であった。
- ・ 卒業後も就職希望者への支援を続けていることは好ましい。

⑤学生支援

- ・ キャリアセンターの拡充、スクールカウンセラーの導入、学校独自の奨学金制度、離職者の学び直し支援である教育訓練給付金制度の申請等、様々なケースに対応し生徒が信頼を寄せている。
- ・ 広島YMCAのミッションである「一人ひとりを大切にいのち輝く未来へ」を文字通り実践している。

⑥教育環境

- ・ 生徒数の安定的推移および留学生が増加のために教室に余裕が無くなってきている。
- ・ 言語コミュニケーション科は入国管理局の定めた設置基準に従い改善を進めていただきたい。
- ・ トイレの改修による教育環境の改善を行い、生徒の不満がすべて解消し生活様式の変化に完全対応が出来ている。
- ・ 学外での実習先確保も安定しており、実務能力を養う環境整備が整っている。今後も生徒の学習環境をさらに向上させるために努力して欲しい。

⑦学生の受け入れ募集

- ・ 広島YMCA専門学校4校の担当者が全国の情報を踏まえ、推進会議を定期的に行い、募集戦略・戦術を検討している。
- ・ 全体として学費を上げず、できるだけ生徒の経済状況を考えた特待生や奨学生の受入れ努力が伺える。今後も高額な広報費用を掛けず、選ばれる学校としての努力を続けてほしい。

⑧財務

- ・ 言語コミュニケーション科は2007年をピークに落ち込みを続けたが、さまざまな取り組みによりピーク時に戻りつつある。引き続き留学生に対する学費の減免、独自の奨学制度などを継続し、定員を充足を目指している。
- ・ 全般的に財務状況は良好である。また、家庭環境の変化などに対応し、国のパイロットプログラムである修学支援事業を実施したことは評価できる。

⑨法令順守

- ・ 関係法令の順守、広島YMCA情報保護ガイドラインの周知徹底が行われている。

⑩社会貢献・地域貢献

- ・ 他校には真似できない、広島YMCA専門学校の独自の活動を引き続き行っていることが伺える。
- ・ 社会貢献活動は本校の教育の一つの柱であり、生徒の人間力の形成に努めるべく、引き続き多くの学生の参加機会の拡大に努め、就職予備校では無い「最終学歴校」としての学校づくりを続けていただきたい。

⑪国際交流

- ・ ホスピタリティ科の学生による海外提携校との現地研修が行われており、成果が現れてきている。
- ・ フィリピンワークキャンプへの参加、海外交流プログラムのサポートなど、積極的に生徒が参加している。

その他のご意見

- ・ 教育課程編成委員会および学校関係者評価委員会が機能していくにつれて、本校について客観的に評価でき、課題も見えてきた。また教員への影響も良い方向に働いているのではないかと思う。
- ・ 入学生に関しては、在校生兄弟、卒業生の子ども、親類、クラブの後輩など、何らかの関係を持つ生徒の入学が目立つ。
- ・ 評価③が④になっている部分が2か所あり、学校の努力が伺える。(以下2分野)
 - 教育活動：関連分野の企業関係施設等、業界団体の連携により、カリキュラム作成見直しが行われているか。③→④
 - 学生支援：保護者と適切に連携しているか。③→④

3. 2016年度 学生状況報告

配布資料に基づき在校生の現状報告・後期学校行事および2017年度募集状況について報告がなされた。

●1年生の生活状況

医療事務科

- ・ 日常生活の当たり前を根気よく指導を行っている。
- ・ 精神的に問題を抱えている学生が数名おり、気持ちの不安定から体調不良を起こすなど悪循環を繰り返すことが見られる。声掛けと傾聴を常に行っている。家庭との連携も行っている。
- ・ 学習状況の差が出てきており、補講を実施している。

ホスピタリティ科

- ・ デュアルコースの生徒は学ぶ意識が高いが、他2コースについては出席率が芳しくない生徒が数名いる。

社会体育科

- ・ 入学して半期が終了し、全般的に真面目な取り組みが見られる。資格取得、専門的な知識を習得するためには、どのような姿勢で授業に取り組めばいいのか理解し始めているように感じる。

●2年生の状況

医療事務科

- ・ 就職活動が本番を迎え、内定者も増えてきている。しかし、社会人となるべく基本的な生活リズムが崩れている生徒がおり日常的に指導を行っている。

ホスピタリティ科

- ・ 例年に比べ早いペースで進路決定をしている。残りの生徒についてもキャリアセンター主導で引き続き今後もフォローをしていく。(1名は留学予定)

社会体育科

- ・ 就職が内定した者、不採用になった者、進学を検討している者、方向性が決まらない者など、状況が変化している。
- ・ 就職先の選定で意識が低い生徒がみられる。正社員等の条件よりも楽しい職場などが優勢されがちな傾向が見られる。

【今後の学校行事について】

別紙資料を基に今後の学校行事について説明を行った。

4. 2016年度 就職状況報告および学校行事予定の説明

配布資料の内定者一覧および2016年度後期学事日程表に基づいて説明がなされた。

最後に安森校長より挨拶をいただき閉会とした。

記 録 岩垂竜太郎

議事録署名人 羽原 泰二 印

安 森 讓 印

2016年度 学校関係者評価シート

(1)教育理念・目標		自己評価				学校関係者評価委員会評価
評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1					
理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野における職業教育の特色は何か)	④	3	2	1	広島YMCA専門学校2016～2020の新中期計画において、学校改革ビジョン、学校経営計画をすべての教職員が共有し実行することを期待する。	
学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1		
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1		
理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが生徒保護者等に周知されているか	④	3	2	1		
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1		

(2)学校運営		自己評価				学校関係者評価委員会評価
評価項目	適切…4 ほぼ適切…3, やや不適切…2 不適切…1					
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1	校長を中心とした責任ある学校運営・意思決定は機能している。しかし、2010年度の学校統合後の残滓が若干見受けられる。また、業界や地域社会からの学校運営に関する評価に一層真摯に耳を傾けるシステムの整備が必要である。	
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1		
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1		
人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1		
教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1		
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1		
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1		
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1		

(3)教育活動

評価項目	自己評価				学校関係者評価委員会評価
	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1	
教育理念等に沿った教育課程の編成実施方針等が策定されているか	④	3	2	1	関連分野における業界、団体との連携をより密にして、広い範囲から優れた実務家教員の確保に努めてほしい。また、教員についても関連分野の業界・団体へ長期休業中などを利用しての研修体制を急ぎ構築し試行してほしい。
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	④	3	2	1	
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1	
キャリア教育実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫開発などが実施されているか。	④	3	2	1	
関連分野の企業関係施設等、業界団体等の連携によりカリキュラムの作成見直し等が行われているか	④	3	2	1	
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技実習等)が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1	
授業評価の実施評価体制はあるか	④	3	2	1	
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1	
成績評価単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1	
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1	
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1	
関連分野における業界との連携において優れた教員(本務兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1	
関連分野における先端的な知識技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1	
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1	

(4)学修成果

評価項目	自己評価				学校関係者評価委員会評価
	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1	
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1	3学科の就職内定率100%は評価できる。これからも学んだことが活かせる就職先へ送り出す努力を続けて欲しい。卒業生に関する就職後の追跡調査が十分とはいえない。この点に関しては見直しをお願いしたい。
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1	
退学率の低減が図られているか	④	3	2	1	
卒業生在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	③	2	1	

(5) 学生支援		自己評価				学校関係者評価委員会評価
評価項目		適切…4	ほぼ適切…3,	やや不適切…2	不適切…1	
進路就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	キャリアセンターの機能が安定し、充実している。学生の生活相談窓口としても機能しており評価できる。就職指導担当者を公立中学校や高等学校へ派遣し、マナー接遇指導を行うプログラムも定着しており、地域連携という面でも評価できる。	
学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1		
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1		
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1		
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1		
学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1		
保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1		
卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1		
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1		
高校,高等専修学校等との連携によるキャリア教育職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1		

(6) 教育環境		自己評価				学校関係者評価委員会評価
評価項目		適切…4	ほぼ適切…3,	やや不適切…2	不適切…1	
施設設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1	専門教育を行う施設、設備は基本的に整っている。学科ごとに整備された研修やインターンシップも充実し、専門技能を高める努力が認められる。	
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1		
防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1		

(7) 学生の受け入れ募集		自己評価				学校関係者評価委員会評価
評価項目		適切…4	ほぼ適切…3,	やや不適切…2	不適切…1	
学生募集活動は,適正に行われているか	④	3	2	1	過大な費用を掛けず適正な広報活動が行われていることが伺える。昨今の経済状況を考慮した独自の奨学生制度に加え、国の修学支援制度も取り入れて学びたい学生を応援する姿勢は評価できる。今後も可能な限り学費を低廉に抑え、また、生徒に対するの奨学金制度等をさらに充実してほしい。	
学生募集活動において,教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1		
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1		

(8) 財務		自己評価				学校関係者評価委員会評価
評価項目		適切…4	ほぼ適切…3,	やや不適切…2	不適切…1	
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1	学校法人として財務情報が公開されている。	
予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1		
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1		
財務情報公開の体制整備はできているか	4	③	2	1		

(9) 法令遵守		自己評価				学校関係者評価委員会評価
評価項目		適切…4	ほぼ適切…3,	やや不適切…2	不適切…1	
法令,専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1	各種法令の順守、個人情報保護に関しても対策が取られている。外部評価を受けるため学校関係者評価委員会が機能し始めているが、今後は第三者評価に向けた取り組みを始めて欲しい。	
個人情報に関し,その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1		
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1		
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1		

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	自己評価				学校関係者評価委員会評価
	適切…4	ほぼ適切…3, やや不適切…2	不適切…1		
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献地域貢献を行っているか	4	③	2	1	生徒の人間力の形成に効果が大きい社会貢献活動への参加は、本校の教育の柱の一つである。広島YMCAのGCC(global community center)が行う災害被災地支援、国際交流プログラムに学生が多く参加している事は、他の専門学校との大きな差であり今後も多くの生徒に参加参加してほしい。
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1	
地域に対する公開講座教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか	④	3	2	1	

(11) 国際交流(必要に応じて)

評価項目	自己評価				学校関係者評価委員会評価
	適切…4	ほぼ適切…3, やや不適切…2	不適切…1		
留学生の受入れ派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	④	3	2	1	広島YMCAの国際交流プログラムに積極的にに関わり、学内の留学生との交流プログラムも頻繁に行われている。地域社会に対する留学生の関わりも頻繁に行われており、国際理解に繋がっている。内向きの若者が増えている中、今後も積極的に国際人を育てる取り組みを期待している。
受入れ派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1	
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	④	3	2	1	
学内で適切な体制が整備されているか	④	3	2	1	